

# 日本土壌微生物学会 2024 年度定期総会資料

2024 年 6 月 16 日（日） 15:40～16:30（予定）

名古屋大学野依記念学術交流館

## 総会次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 2023 年度事業報告
  - 1) 大会報告
  - 2) 会誌出版・編集報告
  - 3) 幹事会報告
  - 4) 会計報告
5. 2024 年度事業計画
  - 1) 事業計画案
  - 2) 予算案
6. その他
  - 1) 学会運営の効率化について
  - 2) 事務局より連絡
7. 議長解任
8. ポスター賞受賞者発表
9. 次年度大会実行委員長挨拶
10. 閉会の辞

## 2023 年度事業報告

### 1) 2023 年度千葉大会

日時：6 月 10 日(土)～6 月 11 日(日) オンラインと対面のハイブリッド（口頭発表のみ）

参加申込数：150 名

一般講演 31 件（うち対面発表 28 件、オンライン発表 3 件）

市民公開シンポジウム「人間社会と土壌微生物 -土壌微生物学が人間社会にもたらす知」4 題

### 2) 会誌出版・編集報告

#### (1) 「土と微生物」出版報告

① Vol. 77-2(2023 年 10 月発刊) 65 頁: 特別企画 3 編, シンポジウム 1 編, 原著論文 0 編, 日本土壌微生物学会 2023 年度大会講演要旨

② Vol. 78-1(2024 年 4 月発刊) 37 頁: 追悼 1 編, 巻頭言, 特別企画 1 編, シンポジウム 2 編, 原著論文 2 編, 書評 1 編, こんなことが、いま

#### (2) 「土と微生物」 投稿状況(2024 年 6 月 1 日)

	原著論文			シンポジウム・総説・解説		
	受付	受理	審査中	受付	受理	審査中
2024	2	1	1	2	2	0
2023	4	3	0	7	7	0
2022	2	2	0	8	8	0

### 3) 幹事会報告

#### (1) 2023 年度第 2 回幹事会

日時：2023 年 12 月 18 日(月) 10:00～12:00

開催方法：Zoom によるオンライン形式

#### (報告事項)

- ① 齋藤総務幹事から、R5.12.4 現在の会員数は 341 名であり、5 月よりも 8 名増加したことが報告された。2023 年度会費が未納の会員が 74 名と例年より多いことが問題点としてあげられた。
- ② 鮫島会計幹事から、資料に基づいて会計執行状況が報告された。
- ③ 染谷編集委員長から「土と微生物」誌の編集状況、投稿状況について報告された。
- ④ 2023 年度千葉大会について、宍戸大会運営委員長より報告された。
- ⑤ 宍戸委員が日本農学会運営委員会について報告した。
- ⑥ 二又総務幹事よりが浜松での微生物生態学会開催（11 月 27 日～30 日）について報告された。学生の参加費を無料（発表する場合には会員になる必要）にしたことで、学生の参加人数が増えた効果があったと思われたこと等が報告された。
- ⑦ 犬伏委員より日本学術会議関連について報告された。
- ⑧ その他 小川幹事長より基金による研究助成について、締切日までに応募が無かったことが説明され、1 月に再度、募集を行うことを、次期事務局と相談することとなった。

(審議事項)

- ① 2024年度名古屋大会について、村瀬大会実行委員長から資料に基づき説明があった。対面とオンラインの併用によるハイブリッド形式で行うが、オンラインは視聴のみを予定していること、また、大会用の銀行口座を開設したことなどが説明された。
- ② 小川幹事長から、次期の事務局幹事が決定されていることが説明された。
- ③ 齋藤総務幹事から、NHK番組の制作会社から土壌微生物の画像を依頼されたことが説明された。テレビ番組制作会社の取材は急な対応が必要になることもあるため、ふだんから、題材ごとに画像や映像を整備しておくことを検討することとなった。

(2) 2024年度第1回幹事会

日時：2024年6月6日（木）15:00～17:20

開催方法：Zoomによるオンライン形式

(報告事項)

- ① 佐藤総務幹事が2024年4月末現在、正会員数は前年より10名増の343名、購読会員は3会員減の22機関24口、賛助会員は1会員増の18社22口であることを報告した。
- ② 原総務幹事がHPのバナー広告を4件（うち3件は名古屋大会関連）受け付けたこと、賛助会員の採用情報を掲載したことなどを報告した。
- ③ 関口会計幹事が2023年度の会計執行状況と会計監査状況について報告した。
- ④ 多胡編集委員長が「土と微生物」誌の編集状況、投稿状況について報告した。
- ⑤ 池永主任編集委員より「Microbes and Environment」の出版状況について報告があり、土壌微生物学会員の投稿数が減少していることが指摘された。
- ⑥ 染谷委員が日本農学会運営委員会について報告した。
- ⑦ 犬伏委員が日本学術会議関連について報告した。
- ⑧ 大友幹事長が基金助成者の報告や24年度の採択状況について説明した。

(審議事項)

- ① 2024年度予算案について、関口会計幹事から資料に基づき提案された。
- ② 2025年度評議員選挙について、小川前幹事長を委員長として選挙管理委員会を発足させることが大友幹事長より提案され、了承された。
- ③ 名古屋大会について、村瀬大会運営委員長から準備状況等について説明、検討依頼があった。非会員シンポジストへは謝金・旅費の双方をお支払いすることを基本とする案が学会事務局より提案され、了承された。また、ポスター賞を、学生が発表するポスターを対象として学会事務局の主導で選抜し、総会で受賞者を発表、表彰することが了承された。
- ④ 「土と微生物」のオンラインジャーナル化構想について検討し、当初目的であった事務の軽減化が見込めないことから今回は見送ることとした。
- ⑤ 次回大会について候補地を複数リストし順番に会長から依頼することとした。
- ⑥ 学会運営の効率化について会長から提案があり、了承された。今後評議委員会・総会を通じて会員の理解を得、進めることとした。
- ⑦ 学会HPのバナー広告掲載規定について原総務幹事から提案があり了承された。

- 規定第3条2 (旧) 幹事会において掲載の可否を決定する。  
(新) 学会長および副会長が掲載の可否を決定する。  
その後、幹事会で経過を報告する。

- 規定第5条 (旧) 広告の掲載位置は、本学会ウェブページのトップページ左サイドメニュー下とする。  
(新) 広告の掲載位置は、本学会ウェブページの各ページ左サイドメニュー下とする。

#### 4) 会計報告 (資料1)

- (1) 2023 年度会計報告
- (2) 2023 年度会計監査報告

### 2024 年度事業計画

#### 1) 2024 年度事業計画案

- (1) 2024 年度名古屋大会を対面・オンラインのハイブリッドで開催する。
- (2) 学会誌「土と微生物」を発行する。
- (3) 2025-2026 評議員選挙を実施する。

そのために小川前幹事長を委員長とする選挙管理委員会を発足させる。

- ・ 2024/6/16 評議委員会後の総会にて選挙管理委員会設置を提案
- ・ 2024/7/1 選挙人名簿の確定
- ・ 2024/11/10 ころ 選挙公示 (今回からインターネットでの投票を検討)
- ・ 2025/1/10 ころ 投票期限
- ・ 2025/1/31 まで 地方選出評議員当選者 (12 名) の確定、委嘱
- ・ 2025/2~3 地方選出評議員による会長・副会長の選出、委嘱
- ・ 2025/4 会長指名評議員 (8 名) の指名
- ・ 2025/6/1 新評議員の任期開始

- (4) 2025 年度大会を茨城大学主催で開催するための準備を進める。

#### 2) 2024 年度予算案 (資料2 参照)

#### 3) その他

- (1) 学会運営の効率化 (資料3)
- (2) 事務局より諸連絡

- ✓ 土壌微生物学会からの M&E 誌の投稿数が減少しているので積極的な投稿を
- ✓ メールでの連絡が届かない会員がいるので、各自登録アドレスの確認を
- ✓ 土壌微生物学会のロゴを作成する予定

資料1 2023年度会計関連報告

日本土壤微生物学会 2023年度会計報告 (2024.3.31現在)

①2023年度収入の部

項目	予算額	決算額	差額	執行率	備考
前年度繰越金	3,666,609	3,666,609			
正会員費	1,635,000	1,425,000	-210,000	87%	5,000円×285名
購読会員費	168,000	174,000	6,000	104%	6,000円×24機関29口
賛助会員費	210,000	190,000	-20,000	90%	10,000円×15社19口
M&E誌代金	10,000	5,000	-5,000	50%	5,000円×1名
大会運営費返金	0	106,856	106,856	-	千葉大会(準備費無しで開催)
印税、著作権料	100,000	111,054	11,054	111%	印税、著作権料
雑収入	20,000	252,586	232,586	1263%	預金利子、環境微生物系合同大会残金(252,567円)
小計 (単年度収入分)	2,143,000	2,264,496	121,496	106%	
合計 (繰越金を含む)	5,809,609	5,931,105	121,496	102%	

②2023年度支出の部

項目	予算額	決算額	差額	執行率	備考
会誌刊行費	1,080,000	1,223,075	143,075	113%	Vol.77No.1(582,682円)、Vol.77No.2(640,393円)
大会運営費	300,000	300,000	0	100%	2024年度名古屋大会準備費(300,000円)
日本農学会分担金	50,000	57,000	7,000	114%	2023年度分
M&E誌印刷・発送手数料	10,000	0	-10,000	0%	M&E誌購読会員×2名分(Vol.38、印刷・発送費)
M&E誌共同編集・出版費	200,000	200,000	0	100%	2023年度分
公開シンポジウム・出前授業経費	10,000	0	-10,000	0%	
事務費	328,000	144,383			
事務管理費	40,000	12,361	-27,639	31%	ホームページ使用料、事務用品収納ボックス購入費用、事務アルバイト謝金など
旅費交通費	30,000	8,500	-21,500	28%	会計監査交通費
会議費	70,000	22,110	-47,890	32%	Zoom契約料
通信郵送費	100,000	37,208	-62,792	37%	会費請求(個別対応)、郵便・宅急便など
文房具費	3,000	517	-2,483	17%	スクラップブック
諸印刷費	80,000	63,192	-16,808	79%	会費請求印刷、大会関連案内印刷、および発送料(中西印刷)
雑費	5,000	495	-4,505	10%	振込手数料など
小計 (単年度支出分)	1,978,000	1,924,458	-53,542	97%	
小計 (次年度繰越金)	3,831,609	4,006,647	175,038	105%	
合計 (繰越金を含む)	5,809,609	5,931,105	121,496		

③日本土壤微生物学会基金（2024年3月31日現在）

前年度末残高	当年度増加額	当年度減少額	当年度末残高	備考
4,199,067	35	200,440	3,998,662	利子 35円 基金助成金 20万円+振込 手数料(廣 怜奈 氏)


④財産目録（2024年3月31日現在）

項 目	金 額
現金	2,984
ゆうちょ振替口座	655,000
ゆうちょ銀行総合口座	3,348,663
ゆうちょ銀行通常貯蓄貯金口座(基金用)	3,998,662
財産合計	8,005,309

## 2023 年度 会計監査報告

本日、金銭、出納簿、預金通帳および各種領収書について詳細に監査した結果、各帳簿、領収書ともに極めて整然としており、支出収入に誤りのなかったことを報告いたします。

日本土壤微生物学会会計監査委員

氏名 岡田 若明   
令和 6 年 5 月 27 日

氏名 竹腰 恵   
令和 6 年 5 月 27 日

資料2 2024年度予算案

日本土壤微生物学会 2024年度予算案

(1) 2024年度収入の部			参考(2023年度)		(2022年度)
項目	予算額	算出方法	予算額	決算額	決算額
前年度繰越金	4,006,647		3,666,609	3,666,609	3,610,408
正会員費	1,670,000	5,000円×334名(正会員343名-会費免除者9名=334、4/30時点)	1,635,000	1,425,000	1,140,000
購読会員費	144,000	6,000円×22機関24口(4/30時点)	168,000	174,000	174,000
賛助会員費	220,000	10,000×18社22口(4/30時点)	210,000	190,000	210,000
M&E誌代金	10,000	5,000円×M&E購読会員2名(4/30時点)	10,000	5,000	10,000
大会運営費返金	300,000	名古屋大会返金	0	106,856	0
印税、著作権料	100,000	印税、著作権料	100,000	111,054	106,323
雑収入	20,000	バナー広告料、預金利子	20,000	252,586	15,020
小計(単年度収入分)	2,464,000		2,143,000	2,264,496	1,655,343
合計(繰越金を含む)	6,470,647		5,809,609	5,931,105	5,265,751
(2) 2024年度支出の部			参考(2023年度)		(2022年度)
項目	予算額	算出方法	予算額	決算額	決算額
会誌刊行費	1,200,000	Vol.78No.1、Vol.78No.2、会誌送付	1,080,000	1,223,075	1,085,351
大会運営費	300,000	2025年度大会準備費(30万円)	300,000	300,000	40,019
日本農学会分担金	50,000		50,000	57,000	49,500
M&E誌印刷・発送手数料	20,000	M&E購読会員5,000円×2名×2年(Vol.38、39)	10,000	0	10,000
M&E誌共同編集・出版費	200,000	確定額	200,000	200,000	200,000
公開シンポジウム・出前授業経費	50,000	公開シンポジウム講師旅費等	10,000	0	10,000
事務費	328,000		328,000	144,383	204,272
事務管理費	40,000	ホームページ使用料、事務アルバイト謝金など	40,000	12,361	21,831
旅費交通費	30,000	諸会議出席費	30,000	8,500	8,460
会議費	70,000	Zoom契約料(3万円)、評議員会等関連経費	70,000	22,110	29,480
通信郵送料	100,000	会費請求、郵便・宅急便など	100,000	37,208	67,077
文房具費	3,000	のり、スクラップブックなど	3,000	517	187
諸印刷費	80,000	会議資料、会費請求、封筒など	80,000	63,192	75,312
雑費	5,000	振込手数料など	5,000	495	1,925
小計(単年度支出分)	2,148,000		1,978,000	1,924,458	1,599,142
小計(次年度繰越金)	4,322,647		3,831,609	4,006,647	3,666,609
合計(繰越金を含む)	6,470,647		5,809,609	5,931,105	5,265,751

### 資料3 土微学会運営の効率化について

#### 1. 各種委員（教育委員、日本農学賞推薦委員、日本農学会運営委員、日本微生物生態学会連絡委員、日本学術会議等連絡委員）の廃止

- ・会員数が減少する中、土微学会を存続させ、会員ボランティアによる事務局を維持するには、会員サービスを行うための学会運営の効率化を図り、学会運営業務の負担軽減が求められる。
- ・そこで、事務局による学会業務を①会員管理、②会計管理、③会員への情報提供（学会 HP, ML 等）、④学会基金の管理・運用、⑤学会誌の発行、⑥年次大会の調整の6つに絞る。
- ・よって、「土と微生物」表紙裏の学会役員は、会則（本項末参照，4）-7）に従い、会長、副会長、評議員、事務局（幹事長、総務、会計、企画）、編集委員会、会計監査とし、その他の委員（会）は廃止する。（下記）

Vol. 78, NO.1  
(2024年4月)

#### 日本土壌微生物学会役員

会 長 宍戸雅宏  
副 会 長 豊田剛己  
評 議 員 浅川 晋, 有江 力, 池永 誠, 宇佐見俊行, 小川直人, 久我ゆかり, 國頭 恭, 境 雅夫, 佐藤 孝,  
清水将文, 染谷信孝, 東條元昭, 成澤才彦, 西澤智康, 三星暢公, 南澤 究, 村瀬 潤, 門馬法明,  
横山和平, 吉田重信

#### 事務局

総 務 大友 量 (幹事長), 佐藤恵利華, 原新太郎  
会 計 関口博之  
企 画 (2024-2025 年は設置せず)

#### 「土と微生物」編集委員会

委 員 長 多胡香奈子  
委 員 池永 誠, 伊藤英臣, 宇佐見俊行, 岡崎 伸, 坂上伸生, 沢田こずえ, 竹本周平, 日恵野綾香

#### 「Microbes and Environments」編集委員会

編集委員長 (Editor-in-Chief)  
大塚重人

#### 主任編集委員 (Senior Editors)

池永 誠, 成澤才彦, 南澤 究

#### 編集委員 (Associate Editors)

伊藤 司, 大友 量, 岡崎 伸, 笠原康裕, 齋藤勝晴, 清水将文, 西澤智康

会計監査 岡田浩明, 竹腰 恵

【ここまで】

#### 教育委員会

委 員 長 宍戸雅宏  
委 員 清水将文, 渡邊健史

#### 日本農学賞推薦委員会

委 員 長 宍戸雅宏  
委 員 太田寛行, 犬伏和之

#### 日本農学会運営委員

染谷信孝

#### 日本微生物生態学会連絡委員

二又裕之

#### 日本学術会議等連絡委員

犬伏和之

注) 「Microbes and Environments」編集委員会に参画している土壌微生物学会員は欄外に別途記載する。



## 2. 日本農学会からの退会について

前項1で述べた日本農学賞推薦委員や日本農学会運営委員をなくす機会に、土微学会は日本農学会から退会する。理由は以下の通り。

- ・土微学会会員の大部分は、日本土壌肥料学会または日本植物病理学会の会員であり、これらの2学会は日本農学会の主要メンバーでもある。したがって、両学会のいずれかから、日本農学会による会員サービス（日本農学会賞への応募、シンポジウムへの参加等）を得ることが出来る。よって、両学会を通して支払っている日本農学会への会費は、大多数の土微学会会員にとっては二重払いとなっている。
- ・日本農学会には年次総会および日本農学賞候補者選考会に会長が対面で出席する他、運営会議には運営委員がリモートで参加することが求められる。運営委員は十数年周期で2年間の常任運営委員を任じられ、対面で年次総会および日本農学賞候補者選考会の開催運営を担う規定であり、担当者にとっては相当な負担となる。一方、これらに参加するための旅費交通費は土微学会負担である。
- ・日本土壌肥料学会および日本植物病理学会のいずれにも所属していない土微学会会員がいたとしても、その会員が日本農学会から提供されるサービスの恩恵を強く受けているとは考え難く、日本農学会から退会しても会員へのサービス低下の影響は小さいと思われる。

## 3. 土微学会基金の審査体制の変更（細則の改訂）

現在の基金の審査体制は、専門性の判断が曖昧かつ脆弱に思われる。よって、基金の申請に対する審査過程を以下のように変更する。

---

### 日本土壌微生物学会基金に関する細則

(現行)	(変更案)
<b>第4条</b> 助成対象の選考は、申請書に基づき学会事務局が行い、評議員会の承認を得て決定する。	<b>第4条</b> 助成対象の選考は、申請書に基づき学会事務局が指名する <b>複数の専門家の審査によって</b> 行い、評議員会の承認を得て決定する。

---

以上の3改革案によって、学会事務局業務の軽減と学会基金の更なる有効活用により、学会運営の効率化と会員サービスの向上を図りたい。

加えて、会員管理や会計管理の外部委託の導入による事務局業務の軽減についても併せて検討する。

宍戸雅宏  
(会長)

## 日本土壤微生物学会会則

### 1) 名称

本学会は「日本土壤微生物学会 (Japanese Society of Soil Microbiology)」と称する。

### 2) 目的及び構成

本学会は、土壤の微生物に関する試験研究の発達と研究者相互の協力・親睦をはかり、農業生産並びに環境保全へ寄与することを目的とする。本学会は土壤の微生物の理論及び応用に関心を有する者で構成される。

### 3) 会員

本学会は以下の会員より成る。

正会員 本学会の趣旨に賛同して入会した者とする。

購読会員 会誌の購読を目的とする機関等とする。

賛助会員 本学会の趣旨に賛同し賛助会員費1口以上を納入する団体及び個人とする。

名誉会員 本学会の発展に多大の貢献をした者で、会長の推薦を経て総会の承認を得た者とする。

会員は本学会の主催する行事に参加し、本学会の刊行する印刷物の配布を受け、本学会の刊行する会誌へ投稿することができる。

### 4) 役員

1. 会の運営のために次の役員をおく。

会長1名、副会長1名、評議員20名、事務局若干名、編集委員会(委員長及び委員若干名)、会計監査2名

2. 会長は本学会を代表し、会務を総括する。副会長は会長を補佐する。会長及び副会長は地域選出評議員により選出される。

3. 評議員会は会長の諮問に応じるとともに、会の発展のために提言を行う。評議員会は正会員より選挙により選ばれた12名の地域選出評議員と、出身母体、分野、年齢などを考慮して会長が指名した会長指名評議員8名より構成される。評議員会の互選により選出された代表評議員は評議員会の総括、意見集約を行う。

4. 事務局は本学会の実務執行機関とし、総務、会計、企画を担当し、幹事長をおく。

5. 編集委員会は会誌に投稿された論文の掲載、その他会誌に関する事項について審議する。

6. 会計監査は本学会の会計を監査する。

7. 会長は必要に応じて各種委員会を設置または廃止することができる。各委員会では、会長の指名により委員長と委員をおき、会長の諮問に応じる。

8. 会長経験者は、会長の要請に応じ、会務の運営に協力する。

9. 役員及び委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

### 5) 総会

総会は最高決議機関とし、年1回開催される。

### 6) 事業

1. 講演会及び研究発表会

2. 会誌の発行

3. 見学

4. その他

### 7) 会費

正会員は年5,000円、購読会員は年6,000円、賛助会員は年1口10,000円以上を納入する。ただし、名誉会員は会費の納入を免除する。また会長経験者は会費の納入を免除することが出来る。会費を1年以上滞納した会員に対しては、会誌の配布と大会及び会誌での発表を停止し、3年以上滞納した会員は会員の資格を失う。

### 8) 基金

本学会に特定の目的を有する基金を設定することができる。基金に関する規定は別に定める。